

みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	わたりキッズわくわくプロジェクト	
代表者名	内田 幸子	
連絡先	TEL : 080-3481-0108 FAX :	E-mail nyantaro-0327@cj9.so-net.ne.jp

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	亘理町子どもミュージカルプロジェクト
事業の目的	目的：人間の本質である人と人との繋がりや営み、様々な経験とそこで味わう感動をコロナ禍と言う理由で子ども達から奪うことはできない。そこで子ども達が今やりたいことを後押しする事業として立ち上がった。当事業では、年齢や地域の枠を超えた仲間やプロの役者・スタッフと一緒に一つの物を作り上げて得る達成感と特別な感動を味わい、心の豊かさを育むことを目的とする。そして、心の内を歌やダンスに載せて自由に思い切って表現することの楽しさを感じ、やる気や元気といった前向きな気持ちを呼び起こしたい。それらは観覧する地域住民も同様に、みんなの「今を頑張っている力」に繋げたい。
事業の具体的内容	イベント名「子どもの笑顔元気ミュージカル in 亘理町」として、ワークショップを11/20(土)、11/21(日)11/27(土)に、本番を11/28(日)に実施。 亘理町・山元町在住の5才～5年生までの参加者達が、プロの役者と共に4日間でオリジナルミュージカル公演を作り上げた。 ストーリーに沿って子ども達が自らの思いを台詞や踊りに込めて表現するのはもちろん、本編の最後には、子ども達がみんなで舞台を作り上げることへの思い、自分の町やコロナで苦戦している人達へのエールなど各々の思いも発表した。
活動の開始から完了までの流れ	イベント参加の一部の子ども達だけの要望で、開催の前月に広報活動としてポスターを作成したり、ラジオ番組出演で思いを伝えた。 ※別紙 活動報告書「広報活動」参照。 イベント開始では、異なる年齢、異なる学校に通う初対面の子ども達同士が、4日間のワークショップを通して協力し合うことの大切さ、踊ったりセリフを言ったり表現の喜びを全身で感じられた、大変充実したワークショップ、本番を行うことができた。 感染対策として、町内のホールは定員の四分の一以下の利用制限を設けていたため、残念ながら一般の観覧は行わず、参加者の保護者など血縁者が見られるようにと、本番を2回行なった。 ※別紙活動報告書 参照

	それでも見られなかった人のために、また地域の人に事業を広く知ってもらうために記録撮影を行った。記録撮影・編集したDVDは町の関係者などへ子どもミュージカルの周知を図るために使用し、さらにYouTubeで限定公開をし、学校の先生や地域の方々へ広くアピールする。(現在編集作業中)
活動の成果と教訓	<p>参加者アンケートより抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 皆で創り上げる達成感や努力してやり遂げる達成感が素晴らしい。 ▷ (参加した息子は)人の前に立つことの楽しさを感じていたようです。そのような機会がこの町であって嬉しかった。 ▷ 引込み思案でシャイな我が子が、この場ではとても活き活きと表現している。一つ自信がつくとまた一つ苦手なことができるようになるのだと感じた。知らず知らずのうちに娘が色んなチャレンジしていることを感じた。 ▷ やってみよう!やってみたい!私にもできた!という心が生まれ、かつ亘理町でこのような思い出を作れたことは「郷土愛」につながっていくと思う。 ▷ こんな楽しいことがあるなんて、亘理町っていいな!また亘理にいればできる!というように、地元を愛するきっかけになったと思う。また、初めて会った子ども同士が一つの目標に向かって作り上げたという達成感は次のチャレンジをしたいというきっかけになると思う ▷ 短い練習期間だからこそ集中して一生懸命覚えようと努力し、家での練習、会場での練習どちらも楽しんでた。 ▷ コロナ禍で子ども達も、親達も、地域の私たちも何か楽しい事、思い出を残せたらと思って過ごした中で、安全に気を配りながらもこうやってできた事は大変有意義で、満足できる事でした。 ▷ スタッフとして関わったが、子供達の笑顔や親御さん達のサポートが、亘理町を元気に、地域を活性化することに影響を与えると思う。 ▷ 主催者だけでは作り上げることができない事業だった。地域の多くの方の支援を受けたことで、人との結びつきも増え、地域の活性化に繋がったと思う。 <p>-----</p> <p>アンケートからもわかるように、子ども達は初対面ながらも演出家や出演者とのワークショップを通して活発にやりとりをし、楽しんで表現活動を行っていた。また、本番を通して強い達成感を得ることができ、自己肯定感や、またやってみようというチャレンジ精神も育てることができた。</p> <p>同じ地域の仲間と共に作り上げたことで地元への愛着心が育ち、地域コミュニティの活性化・復興に寄与する人材の育成につながるとともに、子ども達の活力が大人達、ひいては地域を元気にしていくなど、当初の目標を十分に達成できたと言える。</p>
今後の展望など	今年度事業に参画したメンバーを中心に、今後も事業を継続し、徐々に助成金や補助金に頼る割合を減らし、地元企業や自治体などとの連携を強化し、来年度以降協力していただける自治体を増やしながら将来的には学校教育の一部や町の行事として教育委員会などとも連携しながら補助金や助成金に頼ることなく事業を継続して取り組んで参ります。

2、助成金使途報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額 (円)	備考
福祉活動助成金	500,000	
補助金	1,800,000	宮城県NPO等による心の復興支援事業補助金
助成金	1,000,000	サントリー東北サンさんプロジェクトみらいチャレンジプログラム
自己資金	1,172	
合計	3,301,172	

■ 支出の部

費目	内容	予算額 (円)	実支出額
演出・脚本料	ミュージカルの脚本制作(165,000) 楽曲制作(132,000) 振付費(55,000)	352,000	165,000
稽古指導料	演出・ダンス指導者2名	250,000	
役者出演料	出演者4名(80,000×3人、40,000×1人)	280,000	
舞台制作人件費	舞台監督人件費(120,000) 舞台スタッフ人件費5名(75,000×3、86,000×1、11,000×1)	442,000	
音響照明費	照明・音響人件費(294,000) 機材費(511,500)	805,500	
舞台制作費	舞台設置・修繕用材料(31,644) 衣装(41,250) 舞台装置運搬用トラックレンタル(83,600) 舞台装置レンタル(108,900)	265,394	43,246
車両費	舞台スタッフガソリン代(33,904)・高速代(47,310)	81,214	81,214
広告費	ワークショップ&本番用チラシ、ポスター・郵送代	52,864	
会場費	ワークショップ各室4日間使用 本番会場3日間使用	71,900	
消耗品費	活動資料作成用紙・名札・CD-R・フェイスシールド・消毒用アルコールなど	94,980	880
記録撮影費	記録用動画撮影・映像編集代として	209,000	
舞台設営費	舞台設備(イントレ・仮設舞台)	210,320	210,320
事務スタッフ人件費	職員計5名	186,000	
合計		3,301,172	500,660

*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

3、送付必要書類

- ① 福祉活動助成金 助成活動報告書
プリントアウトしたものを1部郵送、データもメールでお送りください。
- ② 領収書のコピー(郵送)
- ③ 成果物(活動の様子がわかる写真、または事業で作成したものを郵送)
*写真は郵送とメールで送ってください。

事業番号 事業名	亶理町子どもミュージカルプロジェクト～広報活動～		実施 日時	令和3年10月2(土)・3日(日)9時～12時 令和3年10月19日(火)11時～12時	
実施場所	ポスター作成：亶理町中央児童センター／ラジオ出演：亶理ショッピングセンター内				
内容	イベント名「子どもの笑顔元気ミュージカルin亶理町」の広報活動の一環として、参加者の子ども達がポスターを作成しました。子どもミュージカルに興味のある地域の子ども達が参加したくなるようなポスターにしようというアイデアを出し、協力し合って完成させました。 また、イベントの告知に町内の小学校に通う児童2人がFMあおぞらのラジオ番組「NP0の時間第151回」に出演し、子どもミュージカルの楽しさなどと一緒に広報活動をしました。初めての体験に緊張しながらもラジオパーソナリティーにリードしてもらい、子どもミュージカルをやりたいと思ったきっかけなどを子ども自身で伝えました。				
主催 団体名	わたりキッズわくわくプロジェクト 一般社団法人スタンドアップ亶理		協力 団体名	FMあおぞら	
参加者	地区住民	外部の参加者	講師	スタッフ	合計
	ポスター作成／子ども4名 ラジオ出演／子ども2人			ポスター作成(見守り)／実委4名 ラジオ出演／実委2名	ポスター作成／8名 ラジオ出演／4名



イベントのポスター作成は、子どものアイデアを出して作った完全オリジナルデザインとなり、町内のお店や公共施設にチラシと一緒に掲示しました。ポスターを見た地域住民からは「かわいい！楽しそう！」との声を頂きました。また、チラシ配布の翌々日には募集定員に達し、応募を悩んでいた地域の子ども達から「やってみたかった」との声も聞かれました。



亶理町での初となる子どもミュージカルイベント開催のきっかけを作った子どもを代表して、児童2人がラジオ番組に出演して思いを話し、リスナーの方から励ましのメールを頂きました。また、募集定員に達した御礼もその場をお借りし伝えました。

担当者名：阿部彩子

活動報告書

事業番号	亶理町子どもミュージカルプロジェクト ～第1回ワークショップ～	実施日時	令和3年11月20日(土) 14時00分～17時00分		
実施場所	亶理町農村環境改善センター 研修室・会議室・多目的ホール				
内容	<p>プロの役者とともに4日間で製作するオリジナルミュージカルの第1回目のワークショップ。参加者の子ども達と演出家、プロの役者、ダンサー達がコミュニケーションゲームやダンス、歌を通して、遊びながら楽しみながらお芝居を作っていました。</p> <p>ミュージカルは初めてという子ども達と、前回の山元町での公演から待ちに待っていた子ども達の初顔合わせでしたが、プロの役者陣の演技やダンスに引きつけられて、「どんどんやりたい!」という意欲をかき立てられている様子でした。</p> <p>また事前事後の準備段階から、地元の子育て支援団体の方達に準備物の消毒や子ども達へのケアなど、積極的に感染防止対策に関わって頂きました。</p>				
主催団体名	わたりキッズわくわくプロジェクト・一般社団法人スタンドアップ亶理	協力団体名	わたりっ子を育てる会・プランニング開		
参加者	地区住民	外部の参加者	講師	スタッフ	合計
	子ども20名・大人18名		3	カメラ1名/実委5名/他3名	50



保護者を交えた顔合わせの会の様子。ワークショップの内容はもちろん、実行委員が実施に至る思いなどを語りました。



ドキドキしながら子ども達と劇遊びワークショップがスタート。スタッフのことを食い入るように見る子ども達。わくわく興味を持つことが、原動力につながります。



ミュージカル何度目かの子どもも初めての子ども、年長～5年生までの異年齢が入り混じって遊び始めます。



子ども達は遊びの中で、自分のやれることを見つけていきます。

担当者名: 高橋佳子

活動報告書

事業番号 事業名	亶理町子どもミュージカルプロジェクト ～第2回ワークショップ～	実施 日時	令和3年11月21日(日) 10時00分～16時00分		
実施場所	亶理町農村環境改善センター 研修室・会議室・多目的ホール				
内容	ワークショップ2回目はパートごとに分かれて、細かいお芝居を作り込んだり、自分達のアイデアを取り入れたダンスを作っていました。役者陣に慣れた子ども達は自分からセリフのアイデアを出したり、踊りを工夫したりと、表現することを楽しんでいる様子でした。稽古の途中には、何度かお互いの成果を見合う時間も取り入れ、子ども達が互いに認め合い、協力し合う、意識づけも行いました。休憩時間中も大きい子達が下の子ども達の面倒をみたり、自然と子ども達同士が関係を作っていく様子も見られました。子ども達の間で、お芝居が育っていく様子が見てとれました。				
主催 団体名	わたりキッズわくわくプロジェクト・ 一般社団法人スタンドアップ亶理	協力 団体名	わたりっ子を育てる会・ プランニング開		
参加者	地区住民	外部の参加者	講師	スタッフ	合計
	子ども20名・ 大人18名		3	カメラ2名/実 委5名/他2名	50



朝のミーティングの様子。「家に帰ってからも、セリフもダンスも練習したよ!」と報告する子ども達。



子ども達のための自主練習風景。演出家や出演者、ダンサーなど、大人から受けた刺激をもとに、自分たちでどうしようか真剣にセリフをよんでいます。



チームのプチ発表を見合います。互いの成果を認めることで、みんなで一つのもので作り上げるという意識も高くなっていきます。



後半は合同稽古が増えてきて、子ども達の意欲が一層高まりました。マスク越しでも、自然と生き生きとした表情や工夫が増えていくのがわかります。

担当者名: 高橋佳子

活動報告書

事業番号 事業名	亶理町子どもミュージカルプロジェクト ～第3回ワークショップ～		実施 日時	令和3年11月27日(土) 11時00分～18時00分	
実施場所	亶理町農村環境改善センター 研修室・会議室・多目的ホール				
内容	<p>3回目のワークショップの前半は、一週間ぶりにダンス、歌、お芝居の様々な確認を行い、後半は設置された舞台セットの中で実際に稽古を行いました。</p> <p>1週間を心待ちにしていた子ども達は、家でも踊り歌っていた様子で、積極的に稽古が展開されました。さらに、多目的ホールでは前日から大掛かりな会場セッティングが行われ、午後から公演本番の会場に合流した子ども達は舞台づくりがどんな風に行われてきたか舞台監督さんやスタッフさんの話を聞きながら、稽古を行いました。</p> <p>また、稽古の最後には、子ども達それぞれがミュージカルを作りながら感じたこと、考えたこと、まちづくりへの思いを重ねて、意見発表を行いました。</p>				
主催 団体名	わたりキッズわくわくプロジェクト・ 一般社団法人スタンドアップ亶理		協力 団体名	わたりっ子を育てる会・ プランニング開	
参加者	地区住民	外部の参加者	講師	スタッフ	合計
	子ども20名・ 大人18名		4	カメ2名/実委5名/他3 名/舞台スタッフ11名	63



最終のチーム稽古では細かい部分のツメをしていきます。どんどんアクティブになっていく子ども達。



午後からいよいよ、舞台を使つての稽古がスタート。稽古前には、舞台監督から様々な担当スタッフの紹介とガイドツアーがあり、子ども達は舞台が様々な大人達の協力できていることを身をもって知りました。



本番のステージを使つての稽古風景。



本番のステージを使つての稽古風景。

担当者名：高橋佳子

活動報告書

事業番号 事業名	亘理町子どもミュージカルプロジェクト ～ゲネプロ・本番～		実施 日時	令和3年11月28日(日) 10時00分～16時30分	
実施場所	亘理町農村環境改善センター 研修室・会議室・多目的ホール				
内容	<p>本番当日の午前中は軽くダンス稽古をしたあと、衣装をつけて、本番の会場でのゲネプロ（本番通りの照明・音響を使う稽古）にのぞみました。</p> <p>本番では、ストーリーに沿って、子ども達が自らの思いを台詞や踊りに込めて表現するのはもちろん、本編の最後には、このミュージカルを通して自分達が考えたこと、まちづくりへの思いなども発表し、客席から大きな拍手をいただきました。感染防止対策として、観客席数を30名前後に抑えなければならなかったため、観客は保護者など血縁者や協賛企業、役場関係者、スタッフとなりましたが、子ども達はゲネプロと本番の2回公演を全力でやりきることができました。</p>				
主催 団体名	わたりキッズわくわくプロジェクト・ 一般社団法人スタンドアップ亘理		協力 団体名	わたりっ子を育てる会・ プランニング開	
参加者	地区住民	外部の参加者	講師	スタッフ	合計
	子ども20名・ 大人40名	協賛企業2名・役場関係 者2名・取材関係者3名	4	カメ2名/実委5名/他5 名/舞台スタッフ11名	94



ゲネプロで照明が入り、子ども達の気持ちもどんどん高まっています。



本番がスタート。本格的な音と明かりが、演じる側のテンションを高めます。



プロ役者と共に、堂々とした演技を見せる子ども達。



思いっきり身体を伸ばし、思いっきり声を出す。発散して解放する、伸びやかな子ども達の姿が大人達を元気づけます。

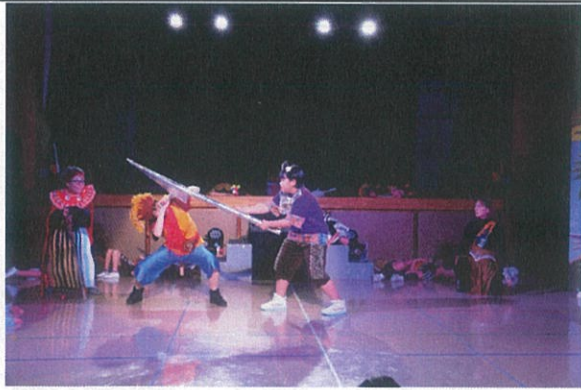
活動報告書



最年少の年長さん達も、本番の一瞬一瞬をイキイキ楽しんでいました。



プロ役者と共に、堂々とした演技を見せる子ども達。



本番で自分の作ったアクションに挑戦！



エンディングで歌い上げる子ども達。



エンディングで思いっきりダンスを踊る子ども達。



自分の住む町への思いやミュージカル体験のことを自分の言葉で語りました。

担当者名：高橋佳子

亶理町の子どもたちと3日間で作る感動ミュージカル

子どもの笑顔元気ミュージカル in 亶理町



11月28日(日) 2021年 亶理町農村環境改善センター
多目的ホール (浜吉田駅から徒歩2分) **入場無料**

開場/14:00 開演/14:30~16:00 亶理郡亶理町吉田字大塚185 ☎0223-36-3114

- 主催/一般社団法人スタンドアップ亶理、わたりキッズわくわくプロジェクト
- 助成/令和3年度宮城県NPO等による心の復興支援事業補助金、子どもゆめ基金
サントリー東北サンさんプロジェクト「みらいチャレンジプログラム」、みやぎ生協福祉活動助成金
- 協賛/株式会社 高橋技研・有限会社 タダノ自動車 ●協力/わたりっ子を育てる会
- 出演/プロ役者と亶理町の子ども達 ●演出・脚本: 渡辺リカ ●音楽: たかはしあきら

新型コロナウイルス感染症対策について



- ・ホール入り口にて観客の方の検温を実施しますので、ご協力お願いいたします。
- ・ホール内ではマスク着用、連絡先記載にご協力下さい。・本番会場内は常時、換気を行います。
- ・ホール定員240席のうち、60席(状況によって変更あり)を使用し、各席の間は空間を設けます。
- ・出演者やスタッフは毎朝晩検温し、体調に変化があった場合は、欠席いたします。

●お問合せ: 『子どもの笑顔元気ミュージカル in 亶理町』受付窓口 仙台市青葉区北山1-5-22 ☎&FAX: 022-276-8864

互理町の子どもたちと3日間で作る感動ミュージカル

子どもの笑顔元気ミュージカル 参加者募集!

11/20 土 11/21 日 11/27 土 11/28 日

プロの役者&ダンサーと行うミュージカルワークショップ
「ミュージカルに出演しよう!」

ミュージカルワークショップ

- ① 11月20日(土)14:00~17:00 ② 11月21日(日)10:00~16:00
③ 11月27日(土)11:00~18:00 ④ 11月28日(日)10:00~16:30 (公演日)

- 場所 / 互理町農村環境改善センター 研修室各室
互理郡互理町吉田字大塚185 ☎0223-36-3114
● 対象 / 5歳~高校生 *4日間通して参加できる方 ● 定員 / 20名 ● 参加費 / 無料
● 持ち物 / 着替え・上靴・汗ふきタオル・筆記用具・飲み物

*20日の概要説明会は、保護者の方もご参加下さい。各種ご案内や衣装説明などがあります。
*練習のときは動きやすい服装・運動靴でご参加ください。(スカートやサンダル・長靴はx)
*練習は保護者見学可能。練習中やゲネプロ時の写真・動画撮影も可能です。

新型コロナウイルス感染症対策について

- ・参加者も同行される保護者の方も朝晩の検温実施のご協力を、お願いいたします。
- ・熱がある場合や調子が悪い時は、ご欠席ください。・ワークショップ会場内は常時、換気を行います。
- ・稽古中もマスク着用にご協力下さい。・スタッフも朝晩検温し体調に変化があった場合は、欠席致します。

※この活動では、団体広報や子どもゆめ基金への報告のために写真撮影を行います。撮影した写真や映像等は広報用にHPやSNS、刊行物等に掲載することがあります。尚、子どもゆめ基金へ報告用に提出した個人情報(写真は)、「(独)国立青少年教育振興機構が保有する個人情報の適切な管理に関する規定」に基づき、子どもゆめ基金助成業務以外の目的には使用されません。

タイムスケジュール

- 11月20日(土)**
14:00 ● 集合・概要説明会
● ワークショップ
17:00 ● 解散
- 11月21日(日)**
10:00 ● 集合
● ワークショップ
16:00 ● 解散
- 11月27日(土)**
11:00 ● 集合
● ワークショップ
18:00 ● 解散
- 11月28日(日)**
10:00 ● 集合
11:30 ● ゲネプロ
13:00 ● 昼食・休憩
14:00 ● 開演
14:30 ● 開演
16:00 ● 終演・片付け
16:30 ● 解散

練習も、稽古も、すべて楽しんでください。



はじめての人も心配ないって!

山元 2018年(平成30年)3月10日(土曜日)

山元の復興を願い熱演

子どもたちが住民励ますミュージカル

山元町在住や出身の子どもたちが舞台に立つミュージカル「明けない夜はないから」が4日、山元町つばめのだまりホールで上演され、3~17歳の34人が熱演した。東日本大震災からの復興に向かう町民を励ますような物語に、観客約300人は大きな拍手を送った。

1時間半の舞台上、子どもたちはおどきの森を暗闇にしようとするオオカミと対決。オオカミを倒すために観客も巻き込んで森に明るさを取り戻した。

町沿岸部で被災し、互理町に引っ越した聖ウルスラ学院英智高2年の景山涼香さん(17)は舞台上で震災の経験を振り返り、「ミュージカルでみんなが力を合わせて朝日を昇らせたように、山元町も少しずつ復興が進んできたように感じます」と語り掛けた。

ミュージカルは町のNPO法人「子



熱演する子どもたち

育てひろば 夢ふうせん)や、各地で子どもミュージカルを制作している「プランニング開」(仙台市)のメンバーらでつくるプロジェクトが主催した。

プランニング開のメンバーも舞台上立ち、子どもたちの好演を引き出した。夢ふうせんの佐藤作智栄さん(45)は「子どもたちが同じ目標に向かって進む姿に胸がいっぱいになった。震災を知らない子どもも舞台上上がったので、当時のことを知るきっかけになったと思う」と話した。

観客300人を巻き込む

プロの役者とともに感動のステージをつくりあげます!

●山元町公演を取り上げた新聞記事より



熱演する子どもたち

復興願う子どもも熱演

山元でミュージカル

山元町の子どもたちが、プロの俳優やダンサーと一緒に、感動のステージをつくりあげます。子どもたちは、震災からの復興を願い、観客を巻き込んで、大きな拍手を送った。

申し込みの流れ

- ① 下記の参加申込書にご記入の上、FAX:022-276-8864 か Mail:kaigenki_project@yahoo.co.jp までお申込み下さい。
- ② 参加するお子さんの写真(顔&全身写真の2枚、携帯で撮った写真でOK)をメールでお送り下さい。
- ③ その後、担当者から資料(公演のご案内・諸注意事項・音源CDなど)を送付します。*先着順です。お申込みはお早めに!
- ④ ワークショップの当日、開始時刻までに集合場所にお集まりください。

※10/31(土) 募集〆切

●お問合せ/『子どもの笑顔元気ミュージカル in 互理町』受付窓口(担当/渡辺) ☎&FAX:022-276-8864 Mail:kaigenki_project@yahoo.co.jp

子どもの笑顔元気ミュージカル in 互理町 参加申込書

参加者名	ふりがな	年齢	歳	性別	男・女	身長	cm/ウエストサイズ	cm
保護者名		学校学年		学校	年	携帯		
住所	(〒 -)	mail						
							応募の動機&自己PRなどお書きください。	

元気を届けたい

子どもの笑顔元気ミュージカル

11月28日、農村環境改善センターで「子どもの笑顔元気ミュージカル」が開催され、町内の児童16人が出演しました。

これは、人前で演技することを通して自由に表現することの大切さを学んでほしいとの思いから、一般社団法人スタンドアップ巨理とわたりキッズわくわくプロジェクトの共催により初めて開催されたものです。

ミュージカルは、アフリカのサバンナを舞台に、悪者のハイエナと動物たちが対決し、サバンナの危機を救う物語で、それぞれの役に扮したプロの演者と子どもたちが一生懸命演じていました。

出演した児童は「今はコロナで大変だからみんなに元気を届けたいと思って頑張りました。」と話しました。



熱演する演者たちに会場からは大きな拍手が送られた

児童笑顔 歌った 踊った

巨理でミュージカル コロナ下母親ら企画

みやぎ

街ひと話題

新型コロナウイルス下でも子どもが活躍する場を与えたいと、巨理町の母親たちが企画した子どもミュージカル「おー、サバンナ！」が28日、町農村環境改善センターであった。

アフリカを舞台に、子どもたちが扮する動物たちが悪者のハイエナと対決し、サバンナの危機を救う物語。小学生20人が大人の役者と一緒に歌って踊った。

4人の母親が5月に結成したサークル「わたりキッズわくわくプロジェクト」の主催。コロナ下で活動自粛を強いられ、子どもの学校行事や体験の機会が次々と奪われるのを目の当たりにして立ち上がった。

演技はプロの演出家や役者が指導し、3日間のけいこで作り上げた。トムソンガゼル役の巨理小4年高橋虹羽さん(9)は「いろんな歌や踊りがあって楽しかった。準備してくれたお母さんたちにありがとうを伝えたい」と感謝した。

サークル代表の内田幸子さん(44)は「子どもたちの生き生きとした顔が見られて全てが報われた」と感極まった様子だった。



舞台上で歌って踊る子どもたち

我慢のコロナ下 輝く場に

巨理で子どもミュージカル 28日上演



子どもミュージカルを企画した(左から)高橋さん、阿部彩子さん、内田さん、阿部美香さん

新型コロナウイルス下でも子どもが輝く場をつくりたい。学校行事の中止や感染対策の徹底で子どもたちが長期にわたって我慢を強いられる中、巨理町の母親4人が子どもミュージカル開催に向けて立ち上がった。「たまったストレスを解放し、舞台で思い切り表現してほしい」。28日に町内で上演される。

意気投合の母親4人企画

町内のサークル「わたりキッズわくわくプロジェクト」が手掛ける。巨理小1〜4年生の娘や息子を持つ内田幸子さん(44)、高橋佳子さん(44)、阿部美香さん(37)、阿部彩子さん(36)がメンバーだ。

公演を思い立ったのは、昨春以降、楽しみや思い出づくりの機会を奪われた子どもたちを見てきたから。修学旅行や音楽発表会などの行事は中止や縮小、給食は黙食となった。

自宅のごっこ遊びで人形相手に消毒を呼び掛けたり、「今日は何人？」と感染者数を気にしたりするわが子に心を痛めた。「命が一番大事。けれど、心の成長も大事」との思いが募った。今年1月、メンバーの子どもたちは山元町であった子どもミュージカルに参加。生き生きとした姿を見て地元でも開催したいと考えた親同士が意気投合し、

5月にサークルを結成した。

「感染者が出たら責任を取れるのか」。周囲から反対の声もあった。会場探しも、感染の「第5波」やまん延防止等重点措置の適用と重なり難航。ようやく確保できた。

公演演目は「おー、サバナー!」。アフリカを舞台に悪者のハイエナと子どもたちが扮する動物たちが対決し、サバナーの危機を救う物語。募集に応じた児童20人が参加する。

プロの演出家や役者の指導で20、21、27の3日間のワークショップで作り上げ、28日、巨理町農村環境改善センターで本番を迎える。一般客の受け入れは断念し、各家族1人が見守る。サークル代表の内田さんは「コロナ下で活動することと親として葛藤もあったが、今しか経験できないことが子どもたちにはある。歌って踊ってワクワクした気持ち味わってほしい」と願っている。